

2021年度 学校関係者評価委員会 開催記録

開催日時 2021年6月14日(月) 14:00~16:00

開催場所 専門学校 文化デザイナー学院 6階プレゼンテーションルーム

委員数 9名

出席委員 7名

茨城県中小企業団体中央会 事務局長兼総務企画課長 近藤 哲生

株式会社光和印刷 制作部 部長 岡田 寛和

アセビデザイン 竹越 萌野(卒業生)

水戸ステーション開発株式会社 取締役総務部長 丸山 久

有限会社メイクス 代表取締役 高松 啓士(卒業生)

茨城インテリアコーディネーター協会 補佐 棚井 政江

株式会社根本建築設計事務所 阿久津 裕司(卒業生)

評価表のみ提出 1名

株式会社関根工務店 代表取締役 関根 貴雄

学校職員出席 3名

学校法人リリー文化学園 本部長 渡邊 忠

専門学校文化デザイナー学院 学校長 荒井 真次

専門学校文化デザイナー学院 教務部長 川上大輔

委員会次第

■新任委員の紹介

■校長挨拶

■2020年度修了制作展プレゼンテーション&作品画像

- ・企業・団体等 連携課題実施計画書

■報告事項

- ・2020年度活動報告資料

①委員名簿

②学校運営

③教育活動

④学修成果

⑤学生の受入れ募集

⑥社会貢献・地域貢献

- ・職業実践教育課程の基本情報について「様式4」

(各委員会意見の活用状況・連携課題実施報告書)

- ・各員会 開催記録の報告について

・「2020年7月13日 学校関係者評価委員会」

・「2020年8月18日 教育課程編成委員会」

・「2021年2月6日・13日 教育課程編成委員会」

■学校評価（2019年度）の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

■授業見学

■2020年度自己点検・自己評価報告書

■協議事項

・評価項目に関する評価

- ①教育理念・目標
- ②学校運営
- ③教育活動
- ④学修成果
- ⑤学生支援
- ⑥教育環境
- ⑦学生の受入れ募集
- ⑧財務
- ⑨法令等の遵守
- ⑩社会貢献・地域貢献
- ⑪国際交流

■本部長挨拶

(委員会の開催)

新任委員の紹介

茨城インテリアコーディネーター協会 補佐 棚井 政江 氏

荒井校長より挨拶。

■報告事項

2020年度修了制作展、2020年度の活動報告、職業実践専門課程の基本情報「様式4」について、前回委員会の開催記録・活用状況、前回の学校評価結果等を川上教務部長より報告。

■授業見学

各学科の授業に入り、授業内容を見学。

■協議事項

昨年度の自己点検・自己評価、今後の改善方策等について川上教務部長より説明。各委員が学校の自己点検・自己評価が正当なものかどうかを評価項目ごとに評価した。

評価基準1 教育理念・目的

○評価表より委員意見

(近藤委員) これまで以上に社会経済環境の変化に即した学校運営を行ってほしい。

(岡田委員) 年2回の講師会で理念の理解度アップに努めている。

(竹越委員) デザイン業界もWEBやシステムが切っても切れない状況になっている。そこまでを学校の授業として行うのは学ぶ量が多すぎて大変になってしまうが、時代に合わせた学びが必要かと思う。

(高松委員) 新しい時代の流れを的確に捉えることが重要である。

(関根委員) コロナ禍においての人材育成は大変だが時代のニーズを的確に捉えてほしい。

評価基準2 学校運営

○評価表より委員意見

(近藤委員) 規程関係の整備状況などが分からず評価できない項目があるので、どのような取り組みをしているのかポイントだけでも説明、また資料提示をしてもらえるとよいと思う。

(高松委員) 学生一人ひとりの能力を伸ばし、やる気が出る指導が重要で教務職員の雇用の確保が必要。

(関根委員) 年々コンプライアンスに対する世間の目が厳しくなっているので、十分注意してほしい。

評価基準3 教育活動

○評価表より委員意見

(近藤委員) 人材育成に係るカリキュラムを更に強化すべきと思う。企業・団体との連携授業をさらに強化し、実践的な人材を育成してほしい。

(高松委員) 実際に社会に出てからの良い経験になっている。指導が素晴らしい。

(関根委員) 資格取得は本当に重要なので力を入れて行ってほしい。

(阿久津委員) 現在とこれから先の建築業務を見据えた学習を取り入れていて良いと思う。

評価基準4 修学成果

○評価表より委員意見

(近藤委員) 就職率は素晴らしいがどのような先に就職しているのか関心がある。また、企業に対する教育も更に強化すべきだと思う。コロナ禍の影響による就職が心配である。

(岡田委員) 卒業生から在校生へのアドバイスは行われているが授業内容について学校へのアドバイス(アンケート)を行っても良いかと思う。

(竹越委員) 他校の学生のポートフォリオを見る機会もあるが、文化の学生のポートフォリオは作り方も個性的でレベルが高く、また年々レベルが上がっていると思う。

(高松委員) 就職率100%は素晴らしい実績。就職後も継続できるスキルを身に付けさせてほしい。

(関根委員) 面接の前にフォローしていく体制も必要だと思う。

(阿久津委員) 就職の際に有利になるインテリアコーディネーターの合格者がいない事が今後の課題。

評価基準5 学生支援

○評価表より委員意見

(近藤委員) コロナ禍による収入減で修学機会を奪わないよう相談体制を強化してほしい。

(岡田委員) 卒業生も気軽に相談できる仕組みがあると良いのではないか。

(関根委員) 学費猶予制度を設けたことはとても良いと思う。

評価基準6 教育環境

○評価表より委員意見

(近藤委員) 学校として災害や感染症などに対するBCP(事業継続計画)は整備しているか。

(岡田委員) 空気清浄機などウイルス感染予防機器の充実も必要かと思う。

(竹越委員) 地下1階のスペースを店舗として学生が使用するのを楽しそうで良いと思う。

(丸山委員) 男子トイレについても早期に洋式化を図っていくべきである。

(高松委員) 感染対策を行うことは学校の責務である。学生の机の間隔が近いように思う。

(関根委員) 防災訓練は毎年度、実施してほしい。

(阿久津委員) 自由に作れる店舗スペースが学校内にあることは各学科の授業の幅を広げられるので、うまく活用してほしい。

評価基準7 学生の受け入れ募集

○評価表より委員意見

(高松委員) コロナ禍の大変な中で2021年度募集の回復は素晴らしい。

(棚井委員) 学生募集活動を積極的に行い、開かれた学校をPRしている点が評価できると思う。

(関根委員) コロナ禍での募集は大変だが特色をPRして頑張してほしい。

(阿久津委員) 建築設計デザイン学科により多くの学生が入ることを願っている。

評価基準8 財務

○評価表より委員意見

(近藤委員) 予算・収支計画など内容が分からず、適正に評価できない項目がある。

評価基準9 法令等の遵守

○評価表より委員意見

(岡田委員) 個人情報や著作権については実際のトラブルを紹介し、理解させることが必要かと思う。

(高松委員) 著作権、著作物の扱いの重要性を理解させることが大切である。

(関根委員) 個人情報保護、著作権の2点はとても重要なので学生にも教えてほしい。

(阿久津委員) 著作権の講義は毎年度、実施してほしい。

評価基準 10 社会貢献・地域貢献

○評価表より委員意見

(近藤委員) コロナ禍で苦境にある飲食業や観光業との連携を進めてほしい。

各評価項目の評価終了。

渡邊本部長より閉会挨拶。

委員会終了。

なお、本日の審議事項については所要の手続きを経て教務会議にて報告する。

上記の通り確認する。

2021年6月30日

学校法人 リリー文化学園
専門学校 文化デザイナー学院
校長 荒井 真次

2021 年度 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価結果	活用状況
<p>◆意見項目</p> <p>評価基準 1 教育理念・目的</p>	<p>◆随時対応</p> <p>対象：全学科全学年</p> <p>授業：</p>
<p>①(近藤委員)これまで以上に社会経済環境の変化に即した学校運営を行ってほしい。</p> <p>②(岡田委員)年 2 回の講師会で理念の理解度アップに努めている。</p> <p>③(竹越委員)デザイン業界も WEB やシステムが切っても切れない状況になっている。そこまでを学校の授業として行うのは学ぶ量が多すぎて大変になってしまうが、時代に合わせた学びが必要かと思う。</p> <p>④(高松委員)新しい時代の流れを的確に捉えることが重要である。</p> <p>⑤(関根委員)コロナ禍においての人材育成は大変だが時代のニーズを的確に捉えていってほしい。</p>	<p>①③④⑤ コロナ禍において社会生活が大きく変化し先を読むことが難しくなっていると感じる。新しいトレンドを捉え、取捨選択しながらスピード感を持って学校運営に落とし込む必要がある。2020 年度はオンライン授業、オンラインや動画を使った募集活動など、これまで直接対面を基本に行ってきたことをオンラインへ切り替えた。また、新しい学び方としてデジタルハリウッドの動画教材について可能性があるか情報交換を行っている。今後は、職業の在り方にも変化が訪れると予想され、将来の仕事内容に合わせた教育を随時取り入れていかななくてはならない。それにあたっては、指導に当たる講師の確保の課題がある。業界団体との連携を図るなど、人材確保にも努めたい。</p> <p>② 講師会は運営方針や各学科の情報共有を目的とし、前期・後期の始業前の年2回実施している。近年文化デザインマインドを新しく掲げ、教育方針の浸透を図っている。また、これからの社会で求められる人材像の資質も変化し、講師・教務も各授業において主体性や課題解決力を磨く指導力が必要とされる。そのため講師会は、指導力の向上の研修も兼ねて実施している。外部講師を招いて講義を行っていただき、意見交換や成功事例を共有し方針に合わせた指導ができる体制を整えている。2021 年は、2020 年に行った文化デザインマインドの学生への浸透度を評価する取り組みを行う予定である。指導が学生にどの程度浸透しているかを測り、指導内容の振り返りと今後の方策を検討する機会とする予定である。今後も講師会を教務・講師の教育の質を向上する重要な機会と位置づけ実施していきたいと考えている。</p>

学校関係者評価結果	活用状況
<p>◆意見項目</p> <p>評価基準 2 学校運営</p>	<p>◆引き続き対応</p> <p>対象:学校運営・全学科全学年</p> <p>授業:</p>
<p>⑥(近藤委員)規程関係の整備状況などが分からず評価できない項目があるので、どのような取り組みをしているのかポイントだけでも説明、また資料提示をしてもらえるとよいと思う。</p> <p>⑦(高松委員)学生一人ひとりの能力を伸ばし、やる気が出る指導が重要で教務職員の雇用の確保が必要。</p> <p>⑧(関根委員)年々コンプライアンスに対する世間の目が厳しくなっているの で、十分注意してほしい。</p>	<p>⑥ 規定については就業規則にまとめられており、社労士と適宜見直しをしている。また、毎年被雇用者の代表を選出し 36 協定を結んでいる。評価基準の資料を明確にする事と不明な状態で進行しないように努める。</p> <p>⑦ 現在クラス担任をしている教務職員は卒業生が中心となっている。デザインを学んで社会に出た経験が指導に生きる部分は多くあると感じる。2020年度は退学率もかなり軽減される結果にもつながった。適切な人材がいた際には卒業後も繋がりを持ち、欠員が出た際などには声をかけるようにしている。また、場合によってはハローワークで求人公開し募集を募っている。また、働き方改革に合わせて労働時間や代休取得など労働環境を改善できており、引き続き雇用の確保に努めた い。</p> <p>⑧ 教育機関であることを踏まえるとそこで働く教務・講師は公共性が求められる。そして、職務規程に定めた事項を遵守する必要がある。また、教育指導等において不適切な対応とならないよう日頃より教職員のあるべき姿を共有するようにしている。守秘義務の徹底、大人数の学生が生活を送る学校生活における安全の確保も避難訓練等を通して確認を行っているが、これらは職務規定に定められている。</p>

学校関係者評価結果	活用状況
<p>◆意見項目</p> <p>評価基準 3 教育活動</p>	<p>◆即対応</p> <p>対象:学校運営・講師</p> <p>授業:</p>
<p>⑨(近藤委員)人材育成に係るカリキュラムを更に強化すべきと思う。企業・団体との連携授業をさらに強化し、実践的な人材を育成してほしい。</p> <p>⑩(高松委員)実際に社会に出てからの良い経験になっている。指導が素晴らしい。</p> <p>⑪(関根委員)資格取得は本当に重要なので力を入れてほしい。</p> <p>⑫(阿久津委員)現在とこれから先の建築業務を見据えた学習を取り入れていて良いと思う。</p>	<p>⑨⑩⑫ 近年企業・団体との連携課題では、学生の提案が実用化されることも増えてきている。連携した課題を行う目的は、リアルな課題条件により実践的な学習を行うことにある。そういった面でも実際に利用されるデザインの提案を行えることは、実践的な学習課題として相応しいものであり、さらにこのような連携を強化していきたい。そして、リアルな課題に取り組むトレーニングによって、社会に出た際にはクライアントの抱える様々な課題を解決できる人材になれると考えている。</p> <p>⑪ 本校の教育内容は職業に必要な実践的学習を中心に置いている。資格取得に関しては、学習内容の理解度の確認とさらなる意欲向上へ結びつけるために各学年で目標を定め取得を目指している。資格取得に向けた取り組みとしては、対策授業での講義とキャリアデザインの授業内での過去問対策を行っている。学習時間が足りない場合には、放課後や夏休みに時間を設けて対策を行っている。</p>

学校関係者評価結果	活用状況
<p>◆意見項目</p> <p>評価基準4 修学成果</p>	<p>◆引き続き対応</p> <p>対象：学校運営・全学科全学年</p> <p>授業：就職活動に関わる授業</p>
<p>⑬(近藤委員)就職率は素晴らしいがどのような先に就職しているのか関心がある。また、企業に対する教育も更に強化すべきだと思う。コロナ禍の影響による就職が心配である。</p> <p>⑭(岡田委員)卒業生から在校生へのアドバイスは行われているが授業内容について学校へのアドバイス(アンケート)を行っても良いかと思う。</p> <p>⑮(竹越委員)他校の学生のポートフォリオを見る機会もあるが、文化の学生のポートフォリオは作り方も个性的でレベルが高く、また年々レベルが上がっていると思う。</p> <p>⑯(高松委員)就職率 100%は素晴らしい実績。就職後も継続できるスキルを身に付けさせてほしい。</p> <p>⑰(関根委員)面接の前にフォローしていく体制も必要だと思う。</p> <p>⑱(阿久津委員)就職の際に有利になるインテリアコーディネーターの合格者がいない事が今後の課題。</p>	<p>⑬⑯就職先の具体的な企業については、入学前の体験入学会や、入学後に行う保護者説明会、講師向けには講師会などで説明する機会を設けている。また、学校評価の資料でも伝えていけるよう努める。2020年度は例年とくらべ求人数は減少したが学生数以上の求人をいただいている。学生自身が求人を見つけることもあり、企業との信頼関係を損なわぬよう指導にあたりたい。起業に係る指導については、毎年3学年を対象に創業についての講話を実施している。就職意識を高めるとともに、将来設計の選択肢のひとつとして起業についての知識を深めている。内容については、起業にはリスクや実力も必要であることも伝えていく必要がある。</p> <p>⑭卒業生には修了制作展の審査会に参加してもらい学生作品の審査をお願いしている。そこで授業の内容や達成度の確認を行っている。また、学校関係者評価委員として迎えている卒業生もおり、いただいた意見をカリキュラムに反映する体制を整えている。</p> <p>⑮⑰就職活動の指導の一環で教務部によるポートフォリオ作成の指導も行っている。全学科に必須なツールのため1年次に制作のための授業も行っている。専門分野の指導は講師が中心だが、マナーや履歴書作成、面接対策など就職活動全般においては教務スタッフが個別・全体で指導を行っている。</p> <p>⑱昨年度はインテリアコーディネーターの合格者を出すことはできなかったが、これまでは3年次に受験していたが、2年次に対策を行い合格ラインに届きそうなレベルに引き上げることができたと考えており、2021年度は再度受験をするシステムになっているため、多くの合格者を出せるよう指導していきたい。</p>

学校関係者評価結果	活用状況
<p>◆意見項目</p> <p>評価基準 5 学生支援</p>	<p>◆継続的に対応</p> <p>対象：学校運営全学科全学年</p> <p>授業：</p>
<p>⑱ (近藤委員) コロナ禍による収入減で修学機会を奪わないよう相談体制を強化してほしい。</p> <p>⑳ (岡田委員) 卒業生も気軽に相談できる仕組みがあると良いのではないか。</p> <p>㉑ (関根委員) 学費猶予制度を設けたことはとても良いと思う。</p>	<p>⑱⑳ 日本学生支援機構をはじめ様々な支援が実施されている。それらの情報提供に関しては、学生専用 LINE@を利用し速やかに連絡を行っている。個別相談についても各クラス担任が実施し、随時相談に応じることができる体制を整えている。学校独自の支援として入学希望者向けに、奨学金予約採用者に対しては学費の猶予制度を設けた。進学を検討している段階でも情報を知らずに諦めてしまうこともある。2021年度も制度を継続していく。</p> <p>㉑ 卒業生に対しては接点を持ちつづけることを大切にしている。これまで続けてきた同窓会では卒業生にイベントへ参加してもらうなど、卒業生同士、卒業生と在校生が新たな人間関係を築くことができる機会を設けている。オンラインなど新しいツールをうまく活用するなど新しいアイデアも取り入れ、卒業生との接点が絶えないようにしていきたい。</p>

学校関係者評価結果	活用状況
<p>◆意見項目</p> <p>評価基準 6 教育環境</p>	<p>◆継続的に対応</p> <p>対象:学校</p> <p>授業:</p>
<p>②(近藤委員)学校として災害や感染症などに対する BCP(事業継続計画)は整備しているか。</p> <p>③(岡田委員)空気清浄機などウイルス感染予防機器の充実も必要かと思う。</p> <p>④(竹越委員) 地下1階のスペースを店舗として学生が使用するのを楽しそうに良いと思う。</p> <p>⑤(丸山委員) 男子トイレについても早期に洋式化を図っていくべきである。</p> <p>⑥(高松委員)感染対策を行うことは学校の責務である。 学生の机の間隔が近いように思う。</p> <p>⑦(関根委員) 防災訓練は毎年度、実施してほしい。</p> <p>⑧(阿久津委員)自由に作れる 店舗スペースが学校内にあることは各学科の授業の幅を広げられるので、うまく活用してほしい。</p>	<p>②⑦火災や地震等の自然災害発生時の対応マニュアルを作成し、緊急事態に対応する体制を整えている。しかし、2011年の東日本大震災や現在置かれているコロナ禍など予測できない状況下でどのようなリスクが発生し、損害を最小限に抑え、事業の継続や早期復旧を図っていくか具体的な行動指針を示しておくことも必要である。</p> <p>③⑥ 感染症対策は必須である。学生へは日頃より意識を持たせる指導を行っている。マスクの常時着用、登校時の検温、自身の体調の管理を徹底している。授業を行う際も教室の常時換気、各フロアにアルコール消毒を設置し手指の消毒、校舎内の消毒を日常的に行っている。教室の座席の配置については、クラスの人数によって工夫をしているが、人数が多いクラスは換気やソーシャルディスタンスの確保に注意をしていきたい。また、感染予防機器について情報を収集し、導入を検討したい。</p> <p>④⑧ 地下の店舗については、学生の学習効果につながる利用をしていきたい。制作した作品を販売できる場所があることはモチベーションにも繋がり、人の目に触れることで、自己満足ではなく商品価値を生むレベルまで技術を高めるきっかけにもしていきたい。</p> <p>⑤ 施設環境の修繕は優先順位をつけながら継続して行っていきたい。男子トイレについては、半数が洋式化されており、今後の計画の中に入れていきたい。2021年度は3階フロアの界壁工事を行い防災対策を強化する予定である。</p>

学校関係者評価結果	活用状況
<p>◆意見項目</p> <p>評価基準 7 学生の受け入れ募集</p>	<p>◆継続的に対応</p> <p>対象:学校</p> <p>授業:</p>
<p>②⑨(高松委員)コロナ禍の大変な中で 2021 年度募集の回復は素晴らしい。</p> <p>③⑩(棚井委員)学生募集活動を積極的に行い、開かれた学校を PR している点が評価できると思う。</p> <p>③⑪(関根委員)コロナ禍での募集は大変だが特色を PR して頑張ってほしい。</p> <p>③⑫(阿久津委員)建築設計デザイン学科により多くの学生が入ることを願っている。</p>	<p>②⑨③⑩③⑪③⑫ 2021 年度生募集では、コロナの影響で地元指向が高まり地元の専門学校にとってのプラスメリットがあったと感じる。都内の学校が対面授業を実施できず、教育の質の面でも対面でしっかり学習に取り組める地方の学校に注目してもらえることは嬉しく思う。高校教諭や高校生にしっかりと本校の魅力を見える化して伝えていきたい。その実践として 2021 年度の高校訪問では、パブリシティを冊子にまとめ持参している。また、オンラインを使った広報も昨年の経験で得たノウハウを活かしていきたい。</p>

学校関係者評価結果	活用状況
<p>◆意見項目</p> <p>評価基準 8 財務</p>	<p>◆継続的に対応</p> <p>対象:全学科全学年</p> <p>授業:</p>
<p>㊸ (近藤委員) 予算・収支計画など内容が分からず、適正に評価できない項目がある。</p>	<p>㊸ 予算・収支計画については会計士を含めファイナンシャルミーティングを実施している。2～3 月に一度ミーティングを実施する予定になっていて、経過の状況も確認している。その上での決算書をご報告させていただいている。</p>

学校関係者評価結果	活用状況
<p>◆意見項目</p> <p>評価基準 9 法令等の遵守</p>	<p>◆継続的に対応</p> <p>対象：全学科全学年</p> <p>授業：</p>
<p>③④(岡田委員) 個人情報や著作権については実際のトラブルを紹介し、理解させることが必要かと思う。</p> <p>③⑤(高松委員) 著作権、著作物の扱いの重要性を理解させることが大切である。</p> <p>③⑥(関根委員) 個人情報保護、著作権の 2 点はとても重要なので学生にも教えてほしい。</p> <p>③⑦(阿久津委員) 著作権の講義は毎年度、実施してほしい。</p>	<p>③④③⑤③⑥③⑦ SNS を頻繁に利用する世代にとって、メディアリテラシーの観点からも個人情報の扱いや著作権の概念を理解しておくことは学校生活を送る上でも必要な知識であるが、デザイナーを目指す上でも重要なことである。他社(他者)の権利侵害のリスクから自分を守ることと自身の創作物の権利を守ることはクリエイターにとって大変重要なことである。各授業でも触れているが、講義として学習する時間を設けることも必要であり、年間の在学期間の中で特別講座を設けて実施しているが、毎年度の学習プログラムとしての確立を検討していきたい。</p>

学校関係者評価結果	活用状況
<p>◆意見項目</p> <p>評価基準 10 社会貢献・地域貢献</p>	<p>◆継続的に対応</p> <p>対象:学校</p> <p>授業:</p>
<p>㊸(近藤委員)コロナ禍で苦境にある飲食業や観光業との連携を進めてほしい。</p>	<p>㊸ デザインは課題を解決に導く手段を考え形に表すことであり、コロナ禍で苦境に立たされている業界のために活動することは社会貢献の面でも大変意義のあることであると共に、実践的な力を身に付ける効果的な学習になることも期待できる。2021年度の修了制作では、那珂湊の阿字ヶ浦海岸を題材とした地域課題の解決に取り組む予定である。海水浴を中心とした観光業からこれからの時代に合わせた新しい魅力の開発が望まれている。そして、そのような課題に取り組んだ成果として、近い将来地域から求められるデザイナーになることができると考える。近年、様々なお声をいただける実績と信頼を築き上げることができていると感じている。引き続き地域連携に取り組んでいきたい。</p>

評価基準 1 教育理念・目的

- I 教育理念
- II 教育目標
- III 教育方針
- IV 年度目標

評価項目	学校自己評価	委員評価
	4…適切 3…ほぼ適切 2…やや不適切 1…不適切	
1 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
2 学校における職業教育の特色は明確か	④ 3 2 1	④ 3 2 1
3 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
4 学校の理念・目的・人材像・特色・将来構想などが学生保護者に周知されているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1
5 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界ニーズに向けて方向づけられているか。	④ 3 2 1	④ 3 2 1

課題

⑤各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界ニーズに向けて方向づけられているか。

今後の改善方策

⑤ウィズコロナにおいてはアパレル業界ではオンラインによる接客販売など新しいニーズが生まれている。広告業界ではAIがデザインを考えたり、建築業界ではビッグデータによりリアルなパースが作れるようになるなど技術革新を感じている。技術はAI・コンピュータに置き換わり、今後はデザイナーとして技術革新を課題解決や創造にどう生かしていくかが重要になり、それに合わせた教育内容を構築していく必要がある。

委員特記事項

これまで以上に社会経済環境の変化に即した学校運営を行ってほしい。(近藤委員)

年2回の講師会で理念の理解度アップに努めている。(岡田委員)

デザイン業界もWEBやシステムが切っても切れない状況になっている。そこまでを学校の授業として

行うのは学ぶ量が多すぎて大変になってしまうが、時代に合わせた学びが必要かと思う。(竹越委員)

新しい時代の流れを的確に捉えることが重要である。(高松委員)

コロナ禍においての人材育成は大変だが時代のニーズを的確に捉えてほしい。(関根委員)

評価基準 2 学校運営

- I 学校運営の方針
- II 授業計画
- III 学校組織のありかた
- IV 意志決定のプロセス
- V 業務の効率化

評価項目		学校自己評価				委員評価			
		4…適切	3…ほぼ適切	2…やや不適切	1…不適切	4	3	2	1
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1	④	3	2	1
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1	④	3	2	1
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④	3	2	1	④	3	2	1
4	人事、給与に関する規程等は整備されているか	④	3	2	1	④	3	2	1
5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1	④	3	2	1
6	業界や地域社会に対するコンプライアンスが整備されているか	④	3	2	1	④	3	2	1
7	教育活動等に関する情報公開が適切にされている	④	3	2	1	④	3	2	1
8	情報システム化等による業務の効率化が図られている	④	3	2	1	④	3	2	1

課題

- ③ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか
- ④ 人事、給与に関する規程等は整備されているか

今後の改善方策

③④ 2020年度も改定した就業規則・諸規定を運用し常勤職員、非常勤講師ともに労務が適正に管理された。雇用の確保と継続は学校運営の安定に欠かせないものであり、次年度も適正な労務環境を構築していきたい。

委員特記事項

規程関係の整備状況などが分からず評価できない項目があるので、どのような取り組みをしているのかポイントだけでも説明、また資料提示をしてもらえるとよいと思う。(近藤委員)

学生一人ひとりの能力を伸ばし、やる気が出る指導が重要で教務職員の雇用の確保が必要。(高松委員)

年々コンプライアンスに対する世間の目が厳しくなっているので、十分注意してほしい。(関根委員)

評価基準 3 教育活動

- I 学科編成における全学科を通しての共通な特徴
- II 各学科の概要
- III カリキュラム
- IV 単位認定・成績評価の考え方
- V 資格取得・国家資格に向けた授業
- VI 業界との協力体制
- VII 企業・団体等連携授業
- VIII 業界からの授業成果に関する協力
- IX 修了制作展 作品の展示
- X 実践的な職業教育(インターンシップ)

評価項目		学校自己評価	委員評価			
		4…適切 3…ほぼ適切 2…やや不適切 1…不適切	4	3	2	1
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1	④	3	2	1
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1	④	3	2	1
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1	④	3	2	1
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④ 3 2 1	④	3	2	1
5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④ 3 2 1	④	3	2	1
6	関連分野における実践的な職業教育(産学連携による、インターンシップ実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1	④	3	2	1
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1	④	3	2	1
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④ 3 2 1	④	3	2	1
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1	④	3	2	1
10	資格取得に関する指導体制、カリキュラムの中で体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1	④	3	2	1

11	人材育成の目標を達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
13	関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導育成など資質向上のための取組が行われているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
15	修了制作展において課題の方向性は合っているか。また、プレゼンテーションは適切に行われているか。	④ 3 2 1	④ 3 2 1

課題

⑬ 関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導育成など資質向上のための取組が行われているか

今後の改善方策

⑬ 2020年度も講師会でリクルートによる研修会を実施した。2019年度からの取り組みの振り返りを行い、講師の先生方の学生指導の成功例を共有した。2021年度は学生への浸透度を評価し、検討する機会を設けて指導に生かしていきたい。

委員特記事項

人材育成に係るカリキュラムを更に強化すべきと思う。企業・団体との連携授業をさらに強化し、

実践的な人材を育成してほしい。（近藤委員）

実際に社会に出てからの良い経験になっている。指導が素晴らしい。（高松委員）

資格取得は本当に重要なので力を入れてほしい。（関根委員）

現在とこれから先の建築業務を見据えた学習を取り入れていて良いと思う。（阿久津委員）

評価基準 4 修学成果

- I 就職指導の全体方針
- II 就職目標設定と27年度報告
- III 就職に対する本校の特徴
- IV 就職指導体制

評価項目	学校自己評価	委員評価
	4…適切 3…ほぼ適切 2…やや不適切 1…不適切	
1 在校生は、面接時に必要な自己アピール力を整えているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1
2 就職プログラム（企業訪問・求人票送付・模擬面接・卒業生を囲む会等）は適切にスケジュールされているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
3 就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
4 資格取得率の向上が図られているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1
5 退学率の低減が図られているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
6 卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1
7 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1

課題

②就職プログラム(企業訪問・求人票送付・模擬面接・卒業生を囲む会等)は適切にスケジュールされているか

今後の改善方策

②2021年度より就職指導のスケジュールを変更する。例年企業の採用活動が解禁される3月までに目指す職業や企業を決定できるスケジュールを進めている。それに合わせ、2年次の秋には各学生が企業見学を行っている。時期的に修了制作と平行した就職活動のため時間の確保が難しかった。次年度は企業見学期間を確保する目的で就職指導のスケジュール全体の見直しを行っていく。

委員特記事項

就職率は素晴らしいがどのような先に就職しているのか関心がある。また、企業に対する教育も更に強化すべきだと思う。コロナ禍の影響による就職が心配である。(近藤委員)

卒業生から在校生へのアドバイスは行われているが授業内容について学校へのアドバイス(アンケート)を行っても良いかと思う。(岡田委員)

他校の学生のポートフォリオを見る機会もあるが、文化の学生のポートフォリオは作り方も個性的でレベルが高く、また年々レベルが上がっていると思う。(竹越委員)

就職率100%は素晴らしい実績。就職後も継続できるスキルを身に付けさせてほしい。(高松委員)

面接の前にフォローしていく体制も必要だと思う。(関根委員)

就職の際に有利になるインテリアコーディネーターの合格者がいない事が今後の課題。(阿久津委員)

評価基準 5 学生支援

I 学生支援体制

評価項目	学校自己評価	委員評価
	4…適切 3…ほぼ適切 2…やや不適切 1…不適切	
1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
2 学生相談に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
3 学生にたいする経済的な支援体制は整備されているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
4 学生の健康管理を行う体制は整備されているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1
5 学生の生活支援に対する支援体制は行われているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1
6 保護者と適切に連動しているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
7 卒業生への支援体制はあるか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1

課題

③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか

今後の改善方策

③2020年度募集では学費猶予制度を設けて入学生に対する支援を行った。給付奨学金の予約採用決定者については、入学後減免される授業料の残額分を請求し入学時の経済的な負担を大きく軽減した。貸与奨学金の予約採用決定者に対しては特別措置として、通常2分割までの支払いとなっている授業料を1/4分割まで認めた。2021年度募集でも支援を継続しており、進路を決定する前の高校2年生の段階から周知ができ募集につながることを期待できる。

委員特記事項

コロナ禍による収入減で修学機会を奪わないよう相談体制を強化してほしい。(近藤委員)

卒業生も気軽に相談できる仕組みがあると良いのではないかと。(岡田委員)

学費猶予制度を設けたことはとても良いと思う。(関根委員)

評価基準 6 教育環境

- I 施設・設備状況
- II 防災・災害に対する対応
- III 保険への加入

評価項目		学校自己評価				委員評価			
		4…適切	3…ほぼ適切	2…やや不適切	1…不適切	4…適切	3…ほぼ適切	2…やや不適切	1…不適切
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応出来るように整備されているか	4	③	2	1	4	③	2	1
2	学内外の実習施設、インターンシップについて十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1	4	③	2	1
3	防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1	④	3	2	1

課題

- ①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応出来るように整備されているか
- ③防災に対する体制は整備されているか

今後の改善方策

①2020年度は施設内の女子トイレの洋式化工事を行った。また、B1Fを利用していたテナントの退去に伴い、店舗スペース+倉庫スペースに空きがでた。倉庫スペースについては、DIYの作業スペースとして利用している。店舗スペースに関しては今後学生作品等の販売ショップとして改装を予定している。

委員特記事項

学校として災害や感染症などに対するBCP(事業継続計画)は整備しているか。(近藤委員)

空気清浄機などウイルス感染予防機器の充実も必要かと思う。(岡田委員)

地下1階のスペースを店舗として学生が使用するのは楽しそうで良いと思う。(竹越委員)

男子トイレについても早期に洋式化を図っていくべきである。(丸山委員)

感染対策を行うことは学校の責務である。学生の机の間隔が近いように思う。(高松委員)

防災訓練は毎年度、実施してほしい。(関根委員)

自由に作れる店舗スペースが学校内にあることは各学科の授業の幅を広げられるので、

うまく活用してほしい。(阿久津委員)

評価基準 7 学生の受け入れ募集

- I 募集の動き
- II 広報媒体
- III 募集体制
- IV 学費

評価項目		学校自己評価	委員評価
		4・・・適切 3・・・ほぼ適切 2・・・やや不適切 1・・・不適切	
1	学生募集活動は適正に行われているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
2	生徒募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
3	学納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
4	体験入学会のメニューは本校の内容と合っているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
5	高等学校への直接訪問を行っているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1

課題

- ①学生募集活動は適正に行われているか

今後の改善方策

- ①コロナ禍における対応としては、オンラインによる説明会、個別対応の実施、オンデマンド動画の制作など直接高校生と対面できない状況の中で工夫をし募集活動を行った。結果としては、2021年度入学生は例年並みに回復した。地元進学的需求も高まりつつある中、引き続きどのような状況下でも広報・募集活動ができる体制を整えておく必要がある。

委員特記事項

コロナ禍の大変な中で2021年度募集の回復は素晴らしい。(高松委員)

学生募集活動を積極的に行い、開かれた学校をPRしている点が評価できると思う。(棚井委員)

コロナ禍での募集は大変だが特色をPRして頑張ってもらいたい。(関根委員)

建築設計デザイン学科により多くの学生が入ることを願っている。(阿久津委員)

評価基準 8 財務

評価項目		学校自己評価				委員評価			
		4…適切	3…ほぼ適切	2…やや不適切	1…不適切	4…適切	3…ほぼ適切	2…やや不適切	1…不適切
1	中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1	④	3	2	1
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1	④	3	2	1
3	財務について会計監査が適切に行われているか	④	3	2	1	④	3	2	1
4	財務情報公開の体制整備は出来ているか	④	3	2	1	④	3	2	1

課題

①中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか

今後の改善方策

①2020年度は学年進行中だったインテリア&家具クラフト学科3年生を除く全8クラスでの運営だったが、2021年度は全ての学科で3年制のカリキュラムが進行し全9クラスでの運営となる。3年制の運営に完全移行できたことより、学生数・財政面においてより安定した運営につながる。

委員特記事項

予算・収支計画など内容が分からず適正に評価できない項目がある。(近藤委員)

評価基準 9 法令等の遵守

I 個人情報の保護

II 学校自己点検・自己評価

III 学生作品と著作権の問題

評価項目		学校自己評価	委員評価
		4…適切 3…ほぼ適切 2…やや不適切 1…不適切	4…適切 3…ほぼ適切 2…やや不適切 1…不適切
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
4	自己評価の結果を公開しているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
5	著作権について学生は理解しているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1

課題

①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか

今後の改善方策

①コロナ禍においては感染症対策の徹底と学修機会の確保が文部科学省の方針となっている。今後も学生のさまざまな教育活動に対し、万全の対策を講じるとともに、感染者が発生した場合には個人情報の保護とともに、差別的な扱いなどがないよう配慮する必要がある。

委員特記事項

個人情報や著作権については実際のトラブルを紹介し、理解させることが必要かと思う。(岡田委員)

著作権、著作物の扱いの重要性を理解させることが大切である。(高松委員)

個人情報保護、著作権の2点はとても重要なので学生にも教えてほしい。(関根委員)

著作権の講義は毎年度、実施してほしい。(阿久津委員)

評価基準 10 社会貢献・地域貢献

I 企業・団体等連携の成果

II 企業・団体等連携の一覧

評価項目	学校自己評価	委員評価
	4…適切 3…ほぼ適切 2…やや不適切 1…不適切	
1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
2 学生の自由参加による社会貢献度の高い地域連携ボランティアを奨励、支援しているか	4 ③ 2 1	4 ③ 2 1
3 取り上げる「テーマ」は教育効果や地域への貢献度等の基本的要件を満たしているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1
4 企業・団体等連携授業において、良い評価をいただいているか	④ 3 2 1	④ 3 2 1

課題

②学生の自由参加による社会貢献度の高い地域連携ボランティアを奨励、支援しているか

今後の改善方策

②コロナ禍においてはこれまで行っていた直接体験の機会が限られているのが現状である。しかし、オンラインを使い感染症対策の措置をとった上で学校のイベントを行うなど工夫をしながらできることがある。これまで以上に地域に興味を持ち、自らが地域に関わり貢献しようとする意欲を持つことは専門教育同様に大切なことだと考えている。感染拡大防止を十分に踏まえた上で、引き続きキャリアデザインやLINE@を使い、地域社会に関わる情報などを発信していきたい。

委員特記事項

コロナ禍で苦境にある飲食業や観光業との連携を進めてほしい。(近藤委員)